

## 「(第3次) 生駒市教育大綱」策定に向けたアンケート (社会教育委員)

Q：現行の「(第2次) 生駒市教育大綱」の基本理念及び基本方針（1～3）について、追加や修正が必要と思われる内容やキーワードがあれば、そのお考えとともにお聞かせください。

A：

- ・基本方針の1つを<まちづくり>とし、「愛着と誇りが実感できるまちづくり」や「愛着と誇りを育むまちづくり」を目指す。」としてはどうか。
- ・基本方針の1つを<人づくり>とし、「まちづくりに主体的に（進んで）参画する行動力ある人づくりを目指す」としてはどうか。
- ・誰もが理解できる、わかりやすいことばで目指す市民像を提起。（「いこまびと」は造語であり、大綱を読まないとう理解できない。）
- ・基本理念と基本方針が合致したものがよい。
- ・注釈が必要な理念ではなく、もっとわかりやすいものに変更した方がよい。（「いこまびと」「協創も」）
- ・多様性を認め合う社会を目指すうえで、ジェンダー間の不平等や経済的な格差を是正するためにも「SDGs」の取組は極めて重要であると思う。「SDGs」の文言を入れてはどうか。
- ・「競争」の概念がない。「競争」は社会を生き抜く力を養うために役立つほか、目標設定、努力、向上心を養う源となる。
- ・「競争」だけでなく「協力」も不可欠。バランスの取れたアプローチでの教育が重要と考える。
- ・必要なキーワードとして「ウェルビーイング」「利他性」「協働性」
- ・命や暮らしを守りはぐくむ活動が教育においても価値を認められ、大切にされるとよい。
- ・「人権尊重（の理念の理解を深める）」  
多様性を尊重し、一人一人がかけがえのない存在であることを認識する。  
自分の権利だけではなく、他人の権利についても理解するとともに権利の行使に伴う責任を自覚し互いに尊重し合うことの大切さを理解することが大切。

Q：現在、ご自身の活動分野において感じておられる課題は何でしょうか。

A：

- ・地域の教育力の向上  
大人も子どもも探究学習ができる環境の充実  
すべての教育の出発点としての家庭教育の重要性
- ・住民に、「地域の現状理解と課題に目を向けてもらう”きっかけ”をどう創出するか。
- ・市民がいつでも、どこでもスポーツができる環境の確保
- ・民生・児童委員のなり手不足
- ・忙しい保護者にも「参加したい」と思ってもらえる啓発方法
- ・活動する中で、学校の考え方の違いや学校間のつながり不足を感じる。
- ・子ども会の減少。役員のなり手不足。
- ・地域の活動の役割等が属人的になっている分野が多く継続性に欠ける。次世代に引き継ぎができるようなしくみへの見直しの時期に直面している。
- ・単独の自治会で解決するには限度があり、複数の自治会が協力して推進したり、市民自治協議会との連携など、従来の枠にとられない枠組みが重要。

- ・ P T A 活動における負担軽減及び非加入問題
- ・ 保護者世代のコミュニティ不足
- ・ 自ら学ぶ行動に消極的な方に対し、共に学び活動しようという呼びかけ方が難しい。
- ・ 身近な地域の課題に向き合い仲間を集め、人や環境に寄り添う地道な活動を続けている団体も数多く存在する中、活動を知られていない現状もあり、活動に関わる関係人口を増やすことが地域を豊かにしていくと考える。
- ・ 団体は高齢の方が多く、新規会員の確保や既存の会員存続、運用面の維持、管理、継続が難しくなっている。
- ・ イベントは活性化のためにも必要であるが、それだけに重きを置き過ぎず、活動の目的を全面に打ち出す工夫が必要。

Q：社会教育の役割やこれからの社会教育に期待すること、その実現のために必要と思われることについてのお考えをお聞かせください。

A：

- ・ 学校教育と社会教育がより共通理解を深めること
- ・ 社会教育の果たす役割の明確化
- ・ コミュニティスクールの精神（ねらい）を達成するために「どんな子どもを育てたいか」の熟議
- ・ 学校における支援活動と協働活動の整理
- ・ 社会教育委員として、各コミュニティスクールや放課後子ども教室などの見学や交流
- ・ 子どもの居場所づくりが急務。放課後や長期休業中など、子どもたちは今、「何をしたいのか」いろいろな団体と協力体制を作ることが重要。
- ・ まず何らかの行動（活動・イベント・啓発）をしていくことがスタートで、それにも意味がある。
- ・ 地域住民による地域活動の充実
- ・ ネット社会が広がる中、コミュニケーションの大切さ、人と人との関わりによってしか得られないものを子どもたちに知ってほしい。
- ・ 生涯学習は生涯にわたって知識やスキルを継続的に獲得して自己成長ができるプロセスであり、子どもから大人、高齢者に至るまでのライフワークでステップアップしていくよう、点でなく線につながる学びの機会の仕組みづくりが重要。
- ・ これからの社会ではインカレントの考え方も重要な要素
- ・ 社会人になってからも、また引退してからもいつでも誰もが学べる仕組みが必要。
- ・ 子育てや仕事で時間がなく、退職後に学びや交流ができる場があれば参加したい。
- ・ 市民がともに学び、よりよい人生やよりよい家庭のためにできることを考える場を活発に動かす。
- ・ 社会教育に貢献されている団体の活動を市民に伝え知ってもらうこと、各団体が市内の社会教育団体の情報を持ち合せる必要がある。
- ・ 本市では、コミュニティ形成と地域社会の担い手の分野の取り組みが弱いので、学びを地域貢献につなげる仕組みづくりが社会教育に求められていると考える。
- ・ 社会教育委員同士が、地域の課題やニーズを知り情報交換し、社会貢献できる人づくりをしていかなければならないと思う。
- ・ 子どもたちの教育を支えるためにも、地域との連携や学ぶ場所の拡大を計ること。
- ・ 施設内の学習だけでなく、自然の中でのフィールドワークのスタイル

- ・市民の生きがいや、やりがいが実現できる場作り
- ・社会教育の役割は、将来を担う人づくりであり、人とのつながりづくり。
- ・子どもの声を聴くことが必要。

Q：市として、どのような市民像をめざせばよいと思われますか。(子どもも含めて)

A：

- ・自分の周りの人を思いやることを大切にできる人
- ・人を大切にする心を持つ
- ・生駒市民でよかったと思える
- ・人とのつながりを大切にし、お互い自立しながらも助け合いができる人
- ・何にでも積極的に参加する人
- ・優しさを持った市民
- ・個人が持つスキルや価値観に基づいて多様性を尊重しながら社会全体の発展に寄与する人
- ・自ら好奇心を持ち、新たな知識やスキルを積極的に追い求める姿勢
- ・自己の興味やニーズに基づいて持続可能な計画を立て進めていく能力
- ・社会環境の変化にも柔軟に対応し学びながら成長する
- ・異文化や価値観を尊重し多様性を受け入れ、他の人と協力し、共同の目標を達成することに努力する。
- ・心のゆとりを持った人。心のゆとりで人と人のコミュニケーションを養う。
- ・市民憲章に掲げられている内容を時代に合わせて具現化し、市民それぞれが「自分事」として取り組むことで目指す市民像になるのでは。
- ・いつも笑顔で心優しく思いやりのある行動ができる人
- ・環境の変化にも柔軟に対応し、夢と志を持ち明るく前向きに自身の可能性に挑戦する人

Q：その他、生駒市の教育全般に関してご意見あれば、ご記入ください。

A：

- ・ふるさと生駒に誇りと愛着を持ち、個の資質・可能性を最大限に生かせる教育を。その環境やきっかけづくりが大切。
- ・「いこまっこ」が安心して遊べる場所が必要（学校の運動場の開放はできないのでしょうか）
- ・成人してから英語の苦手意識を持たずにすむよう、気軽に英語を取り入れた教育を。
- ・教育の多様性を尊重し、特別支援教育の充実と、異なるニーズを持つ生徒へのサポートと子どもたちに平等な機会の提供
- ・学校だけの教育ではなく、家庭と学校が連携し学習のサポート、教育への参加を促進する仕組み
- ・学校以外での教育の場の教育プログラムを策定し、推進する仕組み
- ・将来の成長のためのキャリア教育の考え方を組み入れる。
- ・子どもたちの視点ではなく、指導する側の視点に立ち、教師がより質の高い指導ができるよう自己啓発、研修等の仕組みづくり
- ・ラインなどの手軽なツールでイベントの案内などがあればよい。
- ・親同士のコミュニティがうまくできているかどうか教育効果にも影響する。
- ・コロナ禍や異常気象で子ども自身の行動や活動が制限される中、欲求不満が弱い者いじめに向かう

ことも懸念される。学校に行けない子どもも増加している状況で、今以上に手厚い教育が必要。

- ・知識教育に偏っている感がある。徳の教育も合わせて行い、拝金・利己主義を抑え、公共性・社会性を身につける。
- ・経済人だけでなく、古典や歴史などを学び、先人の知恵を参考にする。
- ・社会教育委員の横の連携や関わり、踏み込んだ議論や協働の機会が不足していて表面的な取り組みしかできていないことが残念。
- ・人口減社会で行政サービスも減っていく中では、地域での支え合いがないと健やかで豊かな暮らしはできない。社会教育のできることはもっとあるはず・・・。
- ・個々に応じた教育の提供
- ・タブレットを使うICT教育をさらに充実させ、学習支援システムをもっと活用し、児童・生徒の支援をお願いしたい。
- ・電子教科書の導入の検討を。